

アートラボ 2023 第IV期

金箱淳一 展

たたく・つながる・ひびきあう

会期：2024年2月17日（土）～ 5月14日（火）

会場：本館2階アートラボ

長野県立美術館本館2階の「アートラボ」は、視覚以外の感覚も使った鑑賞が可能な「ラボラトリー（実験室）」となることを目指しています。

2023年度の第IV期展覧会では金箱淳一を取り上げ、「音」と「振動」に焦点をあてた作品をご紹介します。

一見、2組の木のベンチのように見える金箱の作品《Vibracion Banco》（2021）は、座ってたたくことで音が鳴り、さらに振動が伝わる楽器型の作品です。たたくとその振動が自分の体にも、そしてもう片方に座っている相手にも伝わります。座って、たたいて、体全体で音を感じる体験をお楽しみください。

展覧会概要

『アートラボ 2023 第IV期 金箱淳一展

たたく・つながる・ひびきあう』

会 期：2024年2月17日（土）～

5月14日（火）

休 館 日：毎週水曜日 ※祝日の場合翌平日

開館時間：9:00～17:00（展示室入場は16:30まで）

観 覧 料：無料

会 場：長野県立美術館 本館2階 アートラボ

主 催：長野県、長野県立美術館



金箱淳一 《Vibracion Banco》2021

展示作品

金箱淳一 《Vibracion Banco》 2021

長野県が実施した「新美術館みんなのアートプロジェクト」にて制作された作品です。
(2019年依頼 2021年作品完成)



作家紹介

■金箱淳一 KANEBAKO Junichi

1984年長野県浅科村（現：佐久市）生まれ。楽器インターフェース研究者、Haptic Designer、神戸芸術工科大学准教授。筑波大学大学院人間総合科学研究科で博士（感性科学）を取得後、障がいの有無にかかわらず、共に音楽を楽しむ「共遊楽器」（作家による造語）を研究・開発している。2018年 Asia Digital Art Award エンターテインメント部門優秀賞受賞。東京2020パラリンピック閉会式演出協力、他クライアントワークも多数手がけている。

ふれる作品鑑賞方法のご案内（下記についてご理解ご協力をお願いいたします）

- 作品保護のため、荷物やアクセサリを外した状態での鑑賞をお願いしております。
- ・事前に館内1階のロッカーまたはアトラボ受付へ、荷物を預けてください。
- ・入場前は、アトラボ受付にて手指の消毒にご協力をお願いします。
- ・ふれて鑑賞する作品の性質上、過度な力を加えると壊れてしまいます。やさしく大切に触ってください。
- ・混雑状況により入場をお待ちいただく場合があります。

※諸般の事情により、会期などに変更が生じる場合があります。

報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)

TEL:026-232-0052/FAX:026-232-0050/E-MAIL:nam-pr@naganobunka.or.jp



長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum